

12月1日 いこいの里と市民広場にイルミネーション輝く

串間温泉いこいの里と旧吉松家住宅前市民広場にイルミネーションが点灯され、幻想的な雰囲気が各会場を包んでいます。いこいの里では本城地区再生・活性化推進協議会が主催となり「第3回本城イルミナイト」として開催。市民広場では串間商工会議所が主催し、宮崎県建築士会串間支部と串間電気工事業協同組合青年部が共同で設置。それぞれコロナ禍の中、市民の皆さんに元気を届けたいなどの思いが込められています。いこいの里は今年15日まで、市民広場は同月16日まで点灯されます。



いこいの里のイルミネーション



市民広場の竹灯籠のイルミネーション

12月7日 福島高生がマンゴーを使ったお菓子を商品化



開発したお菓子を手にする福島高生と海江田代表



「マーチ棒」(左)と「マンゴーごろごろゴローさん」(右)

福島高校の地域創生クラス3年生34人が、市内にある菓子店の「玉味製菓」と共同でマンゴーを使ったお菓子を開発し、販売を開始しました。地域の活性化策などについて学ぶ「地域創生学」の一環で、おとしの10月に市内の小中学生などに地元おすすめの食材についてアンケートを実施。その結果マンゴーが1番の人気であり、マンゴーを使った商品開発を始めます。試行錯誤を重ねてレシピを考案し、同菓子店に商品化を依頼して完成にこぎつけました。商品は、濃厚なチーズに爽やかなマンゴーの風味が広がるスティックタイプの「マーチ棒」、ドライマンゴーの粒入りバタークリームをサンドした「マンゴーごろごろゴローさん」の2種類。開発に携わった谷口美羽さんは「食べやすい大きさにするなど工夫を重ねてようやく完成した。さまざまな方に食べてもらえたら嬉しい」、同菓子店の海江田代表は「子どもたちの発想がすばらしい。たくさんの方に食べてもらいたい」と話していました。商品は今後も同菓子店で継続的に販売されます。

11月16日 JAはまゆうがきゅうりの新ブランドを立ち上げ

JAはまゆう胡瓜部会は、収穫時の1回のみしか手に触れないということで名付けられた、串間が生んだみやぎきブランド「ワンタッチきゅうり」の新ブランドを立ち上げ、11月4日から販売を開始しました。今回の新ブランドは、きゅうりの曲がり度が1センチ以内など品質を厳選した「ワンタッチ極」と、その極の中から曲がり度がほとんどないなど最高級の品質を集めた「ワンタッチ極プレミアム」の2種類。他産地との競争が強まる中、さらなる差別化を図るために立ち上げました。16日にJAはまゆう串間支所の選果場で行われた出荷作業では、同部会の部員らが手作業で箱詰めなどを行っていました。同部会の河野秀作部会長は「新鮮さがウリ。今後も品質の底上げを行っていき日本一の産地となれるよう努力していきたい」と話していました。



検査を行う
JAはまゆう職員の
花立拓也さん



新ブランド
「ワンタッチ極」

11月18日 串間風力発電所の完成祝う



行政や電力関係者ら約50人が出席

九州電力グループの串間ウインドヒル株式会社が昨年10月から運転を開始している「串間風力発電所」の竣工式が現地で行われました。発電所は2016年9月に着工し、本城から都井地区にかけての南北約4.5キロに23基の風車を整備。風車にはそれぞれ市内の小中学生が命名した愛称が付けられており、ネームプレートも設置されています。総出力は6万4800キロワットで、一般家庭約4万6000世帯分を見込んでいます。式典では「地元の方々が誇りに思えるような発電所にしていきたい」などのあいさつもありました。

11月24日 米良電機産業株式会社に感謝状贈呈

本市は、昨年の4月にオープンした都井岬観光交流館 PAKALAPAKA (パカラパカ) に空調、電気設備などを寄贈した米良電機産業株式会社に感謝状を贈呈しました。パカラパカで行われた式典では、市長から同社の米良充典社長に感謝状を手渡しました。同社の地域貢献の一環で、施設で使用するエアコンや照明などの電気設備一式をご提供いただきました。米良社長は「天井が高く開放感があって落ち着ける場所。景色も素晴らしいのでたくさんの方に足を運んでもらいたい」と話していました。



感謝状を受けた米良電機産業(株)の米良充典社長